

F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

早いもので今年もあとわずかです。今年も1年間ありがとうございました。皆さんにとって令和元年はどんな年だったでしょうか？

今年は6月に「老後資金2000万円不足」が大きな話題になったこともあり沢山の方からご相談を頂きました。年金と言われても先のことで、漠然としていてなにかから手を付ければ良いかわからない、という方が多かったようです。

スポーツの分野では、日本で開催されたラグビーワールドカップが日本チームの躍進もあり大いに盛り上がりましたね。

一方、台風や大雨による甚大な被害、首里城の火災など残念な出来事もありました。

年末年始は、知識と体力を充電し、来年も多くの方のお役に立てるようにしたいと思います。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

宝くじで一攫千金を、誰もが一度は考えたことがあるかもしれません。では宝くじで1等が当たる確率は何の位でしょうか？

日本の高齢化率28%に

下表は総務省が10月に公表した日本の人口です。
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.html>

【令和元年5月1日現在（確定値）】 前年同月比

<総人口>	1億2618万1千人	▲28万5千人 (▲0.23%)
15歳未満人口	1529万2千人	▲20万1千人 (▲1.30%)
15～64歳人口	7511万4千人	▲44万3千人 (▲0.59%)
65歳以上人口	3577万5千人	35万9千人 (1.01%)
<日本人人口>	1億2390万人	▲45万4千人 (▲0.37%)

日本人の人口が減少する中、高齢者の人口が増加、益々高齢化が進んでいる状況が確認できます。

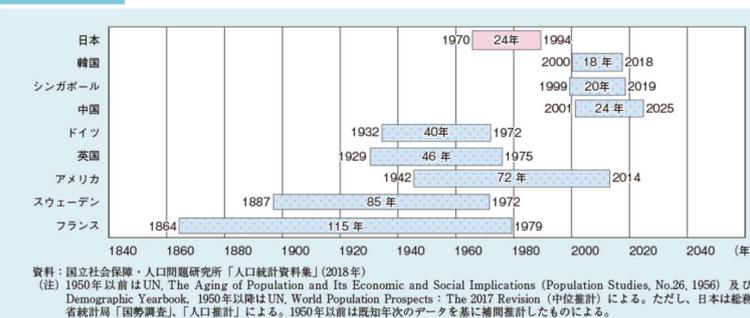
65歳以上の人の割合を高齢化率と言いますが、日本の高齢化率は28%と世界一。支える人より支えられる人の数が多ければどうしても年金や医療・介護などの社会保障制度にひずみが出てきてしまいます。

さらに難しいのは日本の場合、高齢化のスピードが速く、制度の変更や人々の準備が高齢化のスピードに追いついていない、という事です。

内閣府：平成30年度版高齢者白書

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/s1_1_2.html

図1-1-7 主要国における高齢化率が7%から14%へ要した期間



比較的時間を取りやすい年末年始に少しだけ将来の準備についても考えてみてはいかがでしょうか？



F P 松本相談センター
CFP・IFA (金融商品仲介業)
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250 090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすい」と多くの受講者から支持を得ている。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年9月末	310,000	315,001	317,211	320,452
2019年10月末	320,000	333,140	332,262	331,712
2019年11月末	330,000	351,006	347,622	344,565

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

11月の株価は日米とも堅調でした。

	日経平均	NYダウ	ドル円
10月末	22,927.04	27,046.23	108.02
11月末	23,293.91	28,051.41	109.47
騰落率	1.60%	3.72%	

11月は月半ばでやや大きめの調整がありましたが、米中通商協議の進展、堅調な米国雇用統計、緩和的な金融環境などを好材料として上昇しました。

懸念材料としては、香港人権法案をきっかけとする米中対立の激化、米国景気の息切れ、トランプ大統領の弾劾訴追、などがあげられています。

日々いろいろな出来事により株価は動きますが、長期の積立ではそのようなニュースに惑わされず長く続けることが大切です。

確定拠出年金が従来の年金制度と最も大きく異なる点の一つは、**自分で商品を選んで積立てをする**、ということです。

そこで出てくるのが投資信託です。でも、

そもそも投資信託ってなに？

メリットは？

本当に殖えるの？

などが気になりますね。今月は改めて投資信託について整理してみます。

中身を理解して上手に使うと、老後資金準備に向けての強い味方になります。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

例えば老後の備えのためにある会社の株式に投資するとしましょう。その会社が順調に利益を積み上げて成長してくれれば、株主であるあなたは配当を受取ったり、株価が上がったりすることで資産を殖やすことができます。

ではどの会社の株式を買えばよいのでしょうか？

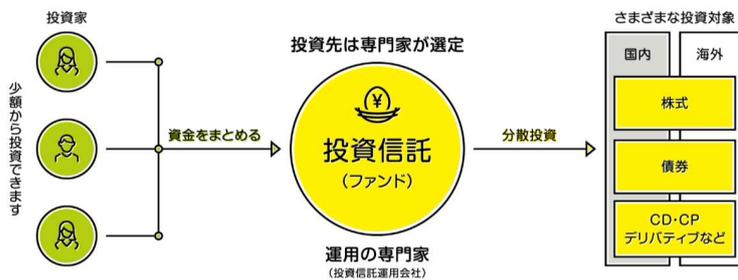
自分が勤めている会社であれば事情がよくわかりますが他の会社のことはよくわからない事も多いのではないのでしょうか。

他の会社のことも良く調べれば良いのだろうけど、どこをどう調べれば良いかわからないし、そのような時間もない、という方も多いと思います。

投資信託はそのようなことを補うための機能を持っています。

1. 専門家が代わりに投資先の企業を選んでくれる

投資信託会社にはアナリストと言われる企業調査の専門家やファンドマネージャーと言われる投資判断の専門家がいます。このような専門家があなたに代ってどの会社の株式を購入すべきかを調査判断してくれるのが投資信託です。



投資信託協会HPより

専門家に頼むのですからその分の費用は必要になりますが、不慣れな企業調査や投資判断をその分野の専門家に委託できるのは大きなメリットですね。

2. 分散投資ができる

この会社は伸びそうだな、と感じることがあってもなかなか確信までは持てない、という事も多いと思います。そのような場合には、複数の会社に投資をしておくことが大切になります。

しかしながら複数の会社の株式を購入するためにはある程度まとまった資金が必要になりますし、より多くの会社の調査をすることは他に仕事を持っている一般の人にとっては難しいかもしれません。

左下の図のように、投資信託は一人一人の資金を集めて大きな単位にするので、数多くの株式を購入することができますようになります。

投資の格言で「卵を一つのかごに盛ってはいけない」という言葉があります。聞いたことがある方もいるのではないのでしょうか？

卵を複数のかごに入れておけば（分散投資）、かごの一つを落としてしまっても、すべてを失うことはありません。

投資信託はこのように知識や経験や時間がない人が、専門家の力を借りながら資産形成をするための機能が備わっているととても便利な金融商品と言えそうです。

投資目的や投資期間に合わせて上手に活用したいですね。

ちょっと気になるお金のコラム

宝くじの当選確率は？

今月は宝くじを購入する、という方もいるのではないのでしょうか？

今年の年末ジャンボ宝くじは1等前後賞合わせて10億円（1等7億円、前後賞1億5千万円）です。10億円あれば・・・と夢を見ながら大晦日を迎えるのは楽しいのですが、一体どの位の確率で当たるのでしょうか？

年末ジャンボ宝くじ公式サイトによると今年の当選金概要は以下のようになります。

<https://www.takarakuji-official.jp/special/nj2019/product/product.html>

	当選金	当選本数	当選金総額
1等	700,000,000	23	16,100,000,000
前後賞	150,000,000	46	6,900,000,000
組違い	100,000	4,577	457,700,000
2等	10,000,000	69	690,000,000
3等	1,000,000	2,300	2,300,000,000
4等	100,000	46,000	4,600,000,000
5等	10,000	920,000	9,200,000,000
6等	3,000	4,600,000	13,800,000,000
7等	300	46,000,000	13,800,000,000
ラッキー賞	20,000	46,000	920,000,000
			68,767,700,000

23本の一等に対して販売枚数は4億6千万枚（1ユニット2000万枚×23ユニット）なので1等が当たる確率は、0.000005%（1/2000万）になります。

前後賞も含め1億円以上当たる確率は0.000015%（3/2000万）、2等まで含めた1000万円以上でも0.000030%（6/2000万）です。

買えば当たる可能性はありますが、こうしてみるとかなり確率は低い、と言えそうですね。

販売総額の1380億円（300円×4億6千万万枚）に対し当選総額は687億円。

販売しているすべての宝くじを購入し、すべての当選金を手にした場合、手元に残るのは購入金額の半分以下（49.8%）です。

つまり平均的な運しか持っていない人は、宝くじを買うたびにお金が半分になっていってしまうこととなります。下表は100万円で宝くじを購入し、平均的な当選をした場合にどうなるかを示しています。

1年目	1,000,000	6年目	30,727
2年目	498,317	7年目	15,312
3年目	248,320	8年目	7,630
4年目	123,742	9年目	3,802
5年目	61,663	10年目	1,895

勿論続けて購入していると当たることもあるかもしれませんがそれは限りなくゼロに近い確率という事になります。

金融資産1億円以上の保有世帯は？

日本で1億円以上の金融資産を保有しているのは、126.7万世帯（野村総合研究所2018年調べ）です。

日本の世帯数は約5800万なので、50世帯に1世帯は1億円以上の金融資産を持っていることとなります。

この数字を見ると宝くじも良いですが他の方法の方が資産形成をする上で有効かもしれない、と感じる人もいるかもしれませんね。

宝くじを買った人も買わなかった人も年末年始には今後のマネープランについて考えてみてはいかがでしょうか？



お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒
<https://fp-matsumoto.com/contact/>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内